

## 韓国土木学会全国大会 日韓建設マネジメント特別 セッション開催と協定締結の 報告

2010年10月21日、韓国土木学会  
年次総会(会議全体は10月20・22日  
で、仁川市にて開催)において、日韓建設マ  
ネジメント特別セッションが開催された。今回の  
特別セッションは初めての開催で、韓国土木  
学会から日本の土木学会建設マネジメント委  
員会小澤一雅委員長(東京大学大学院教  
授)を招待したいとの話がきっかけであった。  
日本側からは建設マネジメント委員会より  
小澤委員長ほか、渡邊法美委員、田村哲委員  
森望委員3名が出席した。この特別セッシ  
ョンでは、日韓双方から建設マネジメント委員  
会の活動状況、さらに日本側からは、公共調



写真1 協定書にサインし握手を交わす小澤委員長(右)と  
Han委員長

達システム、地質リスクマネジメント、韓国側  
からはアセットマネジメントの取組み、グリーン  
& サステイナブル建設の展開を発表し、意見  
交換を行った。

この特別セッションでの情報交換・意見交  
換を通して両委員会は、相互の協力推進を  
目的に、小澤委員長と韓国土木学会建設工  
学・マネジメント委員会のSUSM、EoSUS、EES  
委員長との間で協定を取り交わした。協定で  
は、①共同研究、②ジョイントでの科学技術  
会合・シンポジウム・講演会、③研究成果、  
出版、およびその他研究・教育情報の交換、  
④その他両者の合意による研究および教育  
に関する協力と交流を推進することとし、来  
年度は日本側が招へいすることで合意した。  
(森望(国交省国土技術政策総合研究所総  
合技術政策研究センター建設マネジメント研  
究官))

## 平成22年度 秋の文化功労者、叙勲受章者 (五十音順、敬称略)

- ◎文化功労者  
・中西 準子…正会員 72歳  
(産業技術総合研究所)
- ◎旭日大綬章  
・泉 信也…正会員 73歳  
(元国土交通副大臣)
- ◎瑞宝中綬章  
・荒井 治…正会員 71歳

- (元関東地方建設局長)  
・岩松 幸雄…フェロー会員 76歳  
(元福島工業高専校長)
- ・岡田 朋…正会員 75歳  
(元四国地方建設局長)
- ・住吉 幸彦…フェロー会員 70歳  
(元土木研究所長)
- ・藤田 嘉夫…名誉会員 81歳  
(北海道大学名誉教授)
- ・和里田 義雄…フェロー会員 70歳  
(元国土地理院長)
- ◎瑞宝小綬章  
・伊佐治 敏…名誉会員 71歳  
(元愛知県土木部長)
- ・大橋 義彦…フェロー会員 70歳  
(元四国地方建設局道路部長)
- ・小室 彬…フェロー会員 70歳  
(元建設大学校副校長)
- ・櫻井 正憲…正会員 70歳  
(元第五港湾建設局長)
- ◎瑞宝双光章  
・荻本 信一…正会員 72歳  
(元中部地方建設局静岡国道工事事務所  
長)

## 平成22年度スタディーツアー グラント報告

土木学会では学术交流基金を活用  
し、スタディーツアーグラント(Study  
Tour Grant: STG)と称し、毎年海外協定



写真1 東京湾臨海大橋工事現場からの移動中の船上にて

学会の推薦を受けた土木技術者を日本へ招へ  
いする事業を実施している。従来は若手技術  
者を対象に招へいていたが、昨年度からは教  
育上の効果やまた日本への関心を高めていた  
だくことを期待し、招へいの対象を学生とし、  
人数も4名に増員した。その甲斐もあって昨  
年招へいた学生の日本の大学への留学が決  
まるなど、さつそくその成果が出ている。

さて、本年度は、韓国G.Mr. Kim Seong-  
JUN、モンゴルG.Ms. Gansukh Tserenjangal  
トルG.Mr. Altin Nezin、インドネシアから  
Mr. Negara Cakraの4名を招へし、都内を  
中心に精力的に視察した。

日本滞りは、9月13日から19日までの1  
週間で、土木研究所、鹿島技術研究所、早稲  
田大学などが国を代表する研究・教育機  
関、東京湾臨海大橋、日比谷共同溝の工事  
現場などを訪問し、積極的に情報の収集を  
行った。9月18日には、土木学会学术交流基



写真1 挨拶をするProf. Zeki HASGÜR土木学会トルコ分会長

## 「コンクリート技術に関するトルコ—日本ジョイントセミナー」が開催される

金が支援する第12回インターナショナルサマーシンポジウム(日本大学にて実施)にて、日本での視察先、訪問先について知見、所感を発表してSTGを終えた。

短い滞在期間であったが、わが国の土木事業のスケールの大きさや土木技術の高さ、土木国際教育の整備された環境を知り、強い印象を与えたようである。将来の各人の活動の範囲を広げる契機になることを期待すると同時に、今後、各国の協定学協会と土木学会とのさらなる連携の強化につながることを願いたい。

(和田一範(学術交流基金管理委員会幹事長))



2010年6月9日にトルコのイスタンブールにおいて、Turkish Chamber of Civil Engineers(トルコ土木学会)と土木学会のコンクリート技術に関するジョイントセミナーが開催された。土木学会コンクリート委員会では、過去に台湾、モンゴル、韓国、ベトナム、スウェーデン、ギリシャでジョイントセミナーを行っており、アジアやヨーロッパのさまざまな国と協力関係を築いてきている。今年度は、土木学会トルコ分会と協力してジョイントセミナーを行い、トルコ分会の一行事としての役割も果たした。

セミナーは、土木学会トルコ分会長のイスタンブール工科大学Nok HASGÜR教授(写真1)の挨拶で始まった。挨拶では、日本、トルコともに地震国であり、日本は1995年の兵庫県南部地震、トルコは1999年のIzmit地震でコンクリート構造物に多大な被害が出たことと、多くの人命が失われたことについて触れられ、耐震技術の向上も含め日本とトルコの協力関係が非常に重要であることが話された。

セミナーでは約80人のトルコの技術者の方たちに対し、日本側から4件、トルコ側から5件の講演が行われた。日本側からは、武若耕司氏(鹿児島大学教授)がコンクリート標準示方書に基づく港湾構造物の耐久性設計と維持管理計画について、内田裕市氏(岐阜大学教授)が土木学会の高強度と高靱性セメント系複合材料に関する設計・施工指針(案)の概要について、中村光氏(名古屋大学教授)がコンクリート標準示方書の耐震性能照査の考え方と近年の耐震性能照査技術の進歩に



写真2 セミナー関係者

ついて、鎌田敏郎氏(大阪大学教授)がPC構造物のグラウト充填状況の非破壊検査技術について、講演が行われた。出席者からは日本の技術に関して多数の質問が出された。

一方、トルコからは、トルコの建築物の耐震基準の改訂内容、ボスボラストーンネルでのコンクリートの品質管理方法、低品質コンクリートが用いられている既存建物の耐震性能など、トルコ特有の問題が主に講演された。これらの講演の中では、ボスボラストーンネルでのコンクリートの品質管理方法には日本のマスコンクリートに関する技術が適用され、建築の

耐震基準でも日本の成果が応用されているなど、日本の技術が、高く評価されていることを伺うことができた。

なお、本ジョイントセミナーは、公益信託土木学会学術交流基金による助成を受け、実施されたものである。ここに記して謝意を表す。

(中村光(コンクリート委員会 国際関連小委員長 名古屋大学大学院教授))